

人間力向上委員会事業報告書

委員長 山下 真史

長谷川理事長より人間力向上委員会の委員長という大役を仰せつかり、この担いを何としても全うするぞという想いで取り組んで参りました。とはいえその道のりは順風満帆とはほど遠く、3回の例会を担当するにあたり、会して1度も人間力への配属経験もない中で何から手をつければよいか迷うばかりで先の見えない毎日でありました。

自問自答するなかで気付いたことが、まずは委員長として芯をしっかり持ち方向性を定めること。そして真弓副理事長と大台副委員長そして委員会メンバーとの良い関係性を築くことの大切さでした。「ひと」と「ひと」との繋がりが何事においても最も大切であり、決して絶やしてはならないことです。だからこそ我々は「ひと」として、地域のリーダーとしてあるべき姿とは何かを見出さなければなりません。そのためにも古来より日本人が大切してきた精神性を今一度見直すことを1年間かけて取り組むことを決心しました。

2月度例会では日本人が精神の拠り所としてきた「美德」に目を向け、義・勇・仁を全て備えることの大切さについて取り組んで参りました。武士道が色濃い時代から受け継がれてきた精神性を現代に生きる我々がどのようにしたら理解できるのかを日々考え、わかりやすい解説や偉人エピソード、そして劇を行うなどあらゆる工夫を凝らしてきました。その日々の積み重ねが結果的に委員会メンバーとの結束を強固なものにしてきたのではないかと感じました。

7月度例会では己を律し向き合い、貫き通すためには、自分の中の道「どう」を持つ大切さ、そのためにはやせ我慢の精神が必要であることについて取り組んで参りました。武道を通じて精神性を体感していただくことに着目し、居合道を実施しました。会場の選定、模造刀の準備、講師と打ち合わせなど毎日がむしゃらに走り回っていたことが思い出されます。居合道は当日までどのようになるのかという心配もありましたが、いざ始まった瞬間の凛とした空気が会場を包んだことがとても印象的で、まさに武道の素晴らしさを目の当たりにした瞬間であり、座学や講師講演が主流だった手法に対して新たな可能性の見出すことができたのではないかと実感しました。

10月度例会はリーダーとして芯を持ち何事にもひたむきに取り組むためには「志」を持ち無私の精神を備えて行動する大切さについて取り組んで参りました。2回の例会を実施してきた経験と委員会の結束が強固になってことが逆に仇となり、集大成としては斬新さに欠け、物足りない設えとなり、自分自身過信してしまったことは反省する点でありました。しかしそこから学びや気づきを得られたことを私にとって掛け替えのない財産であります。

この1年間と通じて、リーダーとは日本人の精神を備え、志という芯をしっかり持ち、常に己を律し向き合い、何事にも率先して取り組み貫き通す姿を見出すことであります。それができた先には自ずと多くの同志が集い必ずリーダーについてきてくれることを学ばせていただきました。

最後になりますが、幾度と壁にぶつかった時、適切なアドバイスをいただき常に助けて下さった真弓副理事長、頼りない委員長を盛り上げ一緒に1年間ついてきた下さった委員会メンバーの皆様、そして委員会を先導しまとめ、約1年3か月の苦楽を共にし、常に私を支えてくれた最高のパートナーの大台副委員長、委員長の大役を全うできたのは皆さんの助けがあったからであります。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。メンバーと共に歩んできたことは私にとってかけがえのない財産であり誇りであります。1年間本当にありがとございました。

<事業報告>

<事業報告>

2月12日 2月度例会

鈴鹿青年会議所会館

7月12日 7月度例会

三重交通グループ スポーツの杜 鈴鹿

10月12日 10月度例会

鈴鹿青年会議所会館

通 年 創立 45 周年ビジョン実現、検証に関する事項

通 年 自己啓発、会員訓練、誠の指導者訓練に関する事項

通 年 会員の出席率の把握と出席率の向上に関する事項

通 年 会員の拡大に関する事項